

都市再生の推進に係る有識者ボード MICE施設機能向上WG  
議事概要

日時：平成24年12月21日（金）10：00～12：00

場所：永田町合同庁舎7階特別会議室

議事次第：

1. 開会
2. MICE施設機能向上WGについて
3. MICE施設の現状等に関するプレゼンテーション  
東京のMICE施設機能向上とその課題  
横浜MICEの取組
4. 自由討議
5. 閉会

議事要旨：

<MICE施設の現状等に関する討議について 1>

- 日本のMICE施設の規模は、海外のMICE施設の規模と比べると小さい。国内だけでなく、アジアをはじめとした世界的な市場に対してエキシビジョン（展示会）を開催するにあたっては、より広い施設の整備が望ましい。
- MICE施設は、ホテル、ミーティング会場、情報発信施設、展示場等、複合的に整備し、それぞれの機能が連携することが重要である。
- イニシャル・ランニングコスト低減に向けた建設費補助、固定資産税減免などの支援策が望まれる。
- イベント等に伴う保健所等の許認可手続、道路占有の許認可手続の合理化・迅速化等の規制緩和も重要である。
- MICE施設と連携した公共施設の弾力的な活用など、他のMICE施設と差別化したユニークな取組があっているのではないか。

<MICE施設の現状等に関する討議について 2>

- 稼働率が高く新規催事の受け入れが困難である一方、医療関係者等施設利用者からは着席型の大型会場や荷捌き駐車場の整備について要望されている。
- 新規催事対応や不足機能の増強に向けた拡張に際し、用地費・工事費への国の支援をお願いしたい。
- 単なる施設の大型化や価格面での競争をするのではなく、ターゲットを明確にして、

機能向上を図っていく。

<自由討議>

- 業界団体による大規模な会合を、日本のMICE施設の容量の制約により誘致できないという現状は問題である。
- MICEの機能を端的に表す日本語も必要ではないか。
- ヴァチカンでは、閉館後の美術館を活用し、学会参加者に観覧・食事させるという取組をしている。日本には文化的な資産は厚く蓄積されており、文化的蓄積を生かした取組（ユニークベニュー）は日本の強みになり得るのではないか。
- どのようなセグメントのMICE施設の機能強化が特に必要であるか、機能強化に向けた課題（交通システム強化、施設間連携等）は何か等、既存のMICE施設の評価等を行った上で、世論の納得が得られる形で施策の方向性を打ち出すべきである。
- 都市産業の振興に不可欠な人・モノ・金・情報が動く仕組みを作るためMICE機能向上は不可欠である。MICE施策を推進するためには、国民的合意形成が重要である。
- MICEは医療関連先端産業など新産業育成の触媒として機能する意義も有しており、それを踏まえて議論すべきである。
- MICE施設がもたらす正の外部性を整備した民間主体がすべて吸収することは困難であることが政府による支援を正当化できる一方で、大規模施設への支援は国際的競争の中で稼働率低下のリスクを負う側面に留意が必要である。
- 公主導で整備される大型コンベンション施設と民主導で整備される都市型複合コンベンション施設等は性格が異なるため、施設を類型化して議論すべきである。
- 大型コンベンションセンターの整備の推進とは、施設単体の整備を指すのか、コンベンションセンターへの交通アクセスや周辺の都市整備等関連する機能全般の強化を含めて検討すべきなのか、あらかじめ整理すべきである。